



南北戦争中、南軍が用いた暗号盤。暗号盤の歴史は少なくとも15世紀にまで遡り、第二次世界大戦でも広く使われた。また子供の玩具としても人気である。(出典：国際スパイ博物館)

規模に用いられたのは南北戦争が最初であり、北軍の主任信号士官が暗号盤——オリジナルの暗号盤と非常によく似ていた——の特許を取り、手旗信号と共に活用している。

19世紀が終わりを迎える頃、アメリカ陸軍は1つが通常のアルファベットでもう1つが逆順のアルファベットという同種の暗号盤を採用した。技術的に見ればランダムなものから1歩後退しているが、エラーを防げるという利点があった。

トーマス・ジェファーソンは國務長官在任中(1790～93)に暗号筒を発明しているが、暗号盤はその発想の基礎となるものだった。またフランス人暗号学者のエティエンヌ・バズリーがジェファーソンのアイデアを基に暗号筒を1891年に発明し直している。

【参照項目】平文、レオン・パッティスタ・アルベルティ、M-94暗号機

## 暗号文 (Cryptogram)

暗号化あるいはコード化された文章。

【参照項目】暗号、コード

## 暗号保安 (Cryptosecurity)

暗号あるいはコードを保護する方法及び手続き。暗号システムと運用手続きの両方を対象とする。

【参照項目】暗号、コード、暗号システム

## 暗号法 (Cryptography)

本来秘密筆記の技法を意味するこの単語は、ギリシャ語の *kryptos* (秘密の) と *graphos* (筆記) を由来にしている。メッセージを送る際に送り手と意図した受け手以

外の誰にも本来の意味を読み取れないようにするため、情報機関によって用いられる。

暗号法には大きく分けてコード (code) とサイファー (cipher) の2種類がある。

暗号法という言葉は本来「解読」の意味に用いられていたが、1921年にアメリカの暗号解読者ウィリアム・F・フリードマンが「暗号解読 (cryptanalysis)」という単語を生み出して以来、こちらが使われるようになった。

【参照項目】コード、暗号、秘密筆記法、ウィリアム・F・フリードマン、暗号解読

## 暗号名 (Cryptonym)

エージェントや秘密作戦、秘密計画に付与される偽名または表向きの名前。コードネームとも。

CIAは過去において2文字の接頭辞を伴った暗号名を付与し、特定の対象や分野を示した。MKウルトラ作戦のMKはCIA技術局のスタッフを指し、またMHCHAOSはCIAの国内作戦であるカオス (CHAOS) とアメリカの国際安全保障を指すMHから成立している。

【参照項目】コードネーム、CIA、MKウルトラ作戦、カオス作戦

## アンソロポイド (Anthropoid)

1941年に立案されたナチス高官ラインハルト・ハイドリヒ暗殺作戦を指すイギリスのコードネーム。

【参照項目】ラインハルト・ハイドリヒ、コードネーム

## 安全保障政策諮問会議

(Security Policy Advisory Board)

1994年の大統領令によって設立された組織。当時、アメリカ政府の最高レベルでは冷戦後の安全保障政策に関する分析が行なわれていたが、安全保障政策諮問会議はそれを補佐する非政府の独立諮問組織として設けられた。会議のメンバーは大統領によって任命され、任期は最長3年である。それと同時に、テロリスト情報を含む将来の情報活動を決定すべく、中央情報長官 (DCI) が議長を務める安全保障政策会議も設置されている。

【参照項目】テロリスト情報、中央情報長官

## アンセイル、ヘンリー・W、ジュニア

(Antheil, Henry W., Jr.)

「ケント、タイラー・G」を参照のこと。

## アンダーカバー・エージェント (Undercover Agent)

「密偵」を参照のこと。